

「第1回大谷観光推進基本計画策定懇談会」議事録

1 日時・場所

平成16年1月28日(水) 午後1時から午後3時
宇都宮市庁舎議会棟3階 第一委員会室

2 出席者

【委員】

・森本章倫，小野口順久，林香君，池田克雄，阿部英夫，竹澤奈穂美，鈴木成昭

【市職員】

・商工部次長，商業観光課長，観光コンベンション協会事務局長，事務局職員

3 議事

- (1) 大谷観光推進基本計画策定懇談会設置要領（案）について
- (2) 会長等の選出について
- (3) 懇談会の進め方について
- (4) 「大谷観光推進基本計画」検討フローチャートについて
- (5) 大谷観光の現状，課題等について
- (6) 大谷観光推進の施策体系について
- (7) その他

4 会議経過

- (1) 開会
- (2) あいさつ（商工部次長）
- (3) 懇談会委員，事務局等の紹介
- (4) 懇談会の設置
 - ・事務局で設置要領案を説明，会議の公開と併せて承認された。
- (5) 会長等の選出
 - ・委員の互選により，森本委員を会長に，小野口委員を副会長に選出した。
- (6) 会長あいさつ
- (7) 懇談会の進め方について
 - ・開催日程と検討内容を協議し，最終的に市長に提言することを確認した。
- (8) 「大谷観光推進基本計画」検討フローチャートについて
 - ・下記に要旨を記載
- (9) 大谷観光の現状，課題等について
 - ・下記に要旨を記載
- (10) 大谷観光推進の施策体系について
 - ・下記に要旨を記載

5 傍聴者

なし

6 主な意見，質問等（要旨）

- (1) 「大谷観光推進基本計画」検討フローチャートについて
- (2) 大谷観光の現状，課題等について

事務局 【資料説明】

懇談会開催日程及び検討内容について説明

座長 【協議経過】

懇談会のやるべきことは，大谷観光の大きな道筋をつけることと，民間の力をうまく引き出すためにはどのような方策が必要かといった視点になってくるかと思いますがいかがですか。

委員

討議する資料を見たところ，3回でまとまらないと思う。より実効性のある議論をするためにはどうしたらよいのか工夫する必要がある。

行政の作文作りに協力するつもりはない。そのような形で努力したい。

座長

観光計画は一度作っておしまいではない。本計画を土台に継続的にやっていく仕組みを作ればよいと思う。

事務局

3回で提言をまとめていただきたいというのが基本だが，進捗によっては柔軟に対応させていただく。

委員

大谷観光の議論にあたっては，安全対策を避けて通れない。この点をどのように整理すればよいのか。

また，計画だけで終わらすことなく，具体的に何かを形にしていくことが必要だ。

委員

大谷を中心とする旧城山村の計画ではなく，宇都宮全体との関連性の中で考えていくことが必要だ。上位計画との関連はどうなっているのか。

事務局

安全対策については，200個以上の地震計を設置し，監視体制を整えているところだが，本観光計画の中で正面から位置づけするのは難しいと考えている。また，今まで多くの事業計画が発案されては何故なかなか実現化しなかったのか，その検証も含め実現できる計画をご検討いただきたい。

また，本市全体の観光振興については，並行して「都市観光振興プラン」を策定しており，本計画においては，大谷観光に焦点を絞らせていただきたい。

- 委員** 安全であることの宣言を出さないと開発はないのではないかと。
- 委員** 安全の話になると議論がなかなかその先に進まない。
安全には、落盤しないという物理的な安全と、何を埋めたのかという化学的な安全と2つ考え方があるのではないかと。
少なくとも、公の土地、施設、道路は最優先に埋め立てをすべきではないかと。また、大谷に美術館などの公共施設を建てれば、安全だと言うイメージの強化につながるのではないかと。
旧大谷公会堂をどこに移築するかも大きな課題だ。
- 委員** そこに住む住民の生活の中に混ぜてもらうのが体験型観光の本質だ。安全だと断言できないなら大谷地区だけにこだわらず、宇都宮市全体で考えることも必要ではないかと。
大谷石を宇都宮市全体で使うなど、側面から大谷石を支え、市全体で大谷をPRしていく。そして、その産地が大谷であるという仕組みが考えられないかと。
- 委員** 安全対策には天盤を落とす方法もある。埋め戻すというのは手段であり、目的は大谷独特の地域を作り出すことではないかと。
目的を踏まえた上で、この部分は埋め戻し、ここは落とすとか考えればいい。天盤のない地下空間があってもいい。
今、オープンカット工法で穴の上を抜くことを研究している。われわれは石屋だから自分たちの手で何ができるかを考えている。
- 委員** 大谷石の街の中での活用、これこそが産業であり、観光である。
土産物屋が賑わっているだけが観光じゃない。大谷石産業がここで途絶えてしまえば、大谷の特色がなくなってしまう。
- 委員** 安全性やその地域だけにこだわってはいはループにはまってしまう。
大谷を観光させるという視点ではなく、この極めて全国的にも珍しい「石のある文化」の推進という視点から考えてはどうか。
- 座長** 事務局案ではエリアを切って提案がされている。
今後、いろいろな事業が動いた時に、エリアの特性や動線を踏まえて、開発行為の規制、誘導をしていくことも必要になってくるのではないかと。
- 委員** 事務局案では、大谷地区が一つのゾーンになっているが、既存の施設を活かしつつ、アートの振興をどうするかなど、ゾーン分けが必要だろう。

委員 このエリアの産業創生をどうするのか。このエリアで産業として生み出せるものはないのか。考える必要がある。

例えば、国道 293 号線沿いにりんごの生産農家がいっぱい張り付いており、年間 560 t ものりんごが生産されている。

これを集約することでもっとマクロな視点から大谷をどうするのか考えられるのではないか。

観光以外の産業、商品のつながりをどう持たせていくのか。

例えば、りんごを素材にすれば、りんごの発泡酒である「シードル」や、りんごのリキュールである「カルバドス」などおもしろい。

また、大谷の地下では、様々な食品の醸造や熟成が行われている。

委員 観光と産業のつながりを考えることは重要だ。

事務局 観光とはまさに産業であると思う。こうした全体的なお話しのほか、ぜひ、この大谷地域のポテンシャルを見直していただき、どうするのかという視点からのご議論いただきたい。

委員 現在、明治村にある旧帝国ホテルの遺産を大谷に持ってこれないものか。説明の必要がない文句無しの資源だ。

座長 ライトに匹敵するような人に新たに作ってもらってはどうでしょう。過去の遺産も素晴らしいが、新しい価値を生み出す視点も必要ではないですか。

委員 大谷は素晴らしいが、石ばかり目について他の資源がない。それだけでは若者の気持ちはつかめない。

一日限定 100 食の美味しいものが食べられるとかの工夫を、地域の人が協力しあって出していくような仕掛けはできないか。

食のためなら少し遠くてもやってくる。

100 年先の大谷石を考えるとともに、それだけではない工夫も必要だ。

委員 ろまんちっく村のランと大谷石の鉢の組合わせを宇都宮のお土産にしてはどうか。大谷石を彫る伝承技術を守っていくことが必要だ。

こうした広域的に連携した大谷石の商品化が必要だ。

市内のライブハウスを全部大谷石張りの壁にし、独特の音を楽しめるようにするなど考えられる。

(3) 大谷観光推進の施策体系について

- 委員** 実現できるものを作っていかななくてはダメだ。資料以外にも多くの取り組みが行われている。幅広く取り入れてはどうか。
- 委員** 帝国ホテルの壁は大谷石とテラコッタでできている。テラコッタの技術は後のイナックスとなり、大谷石はこの現状である。
どこにその違いがあったのか。
- 委員** 美味しい名物と気の利いたお土産が必要だ。
- 委員** 大谷は産業遺産、そして空間の遺産。
農村風景との組み合わせも素晴らしい。
- 委員** ろまんちっく村のお客さんがほとんど大谷に来ない。
路線バスもなくなる。課題だ。
- 委員** 今回の計画はどのくらいの予算で考えればよいのか？
- 事務局** 予算については、あくまでも今後の課題。行政と民間の役割分担も含めて考えていかななくてはならない。
安全対策ということでは、地震計だけでも1億円かかっている。
- 委員** 私たちからみれば市役所がやっていることは、どこのセクションでやっても同じ。全般的にどんな予算を考えているのか。
- 委員** 役所が事業をするのではなく、規制の緩和の方が重要。
レストランを出そうと思っても、現状では法律に縛られてなかなか出すことができない。民間のやりたいと思っている人を誘導していく仕組みをつくることが重要だ。
- 委員** エリアの線引きをする時には一般市民の意見を十二分に聴いてほしい。
特定の意見に引きずられることがないように気をつけなくてはならない。
- 委員** 大谷の人に話を聴くと、ここは別天地だよと自慢する。
開発だけで進んでしまうとそんな良さが犠牲になってしまうこともある。
地元の人々の気持ちを大切にしたい計画にしてほしい。

- 座 長** 推進体制の議論のなかで、市民の意見を聴く場をどのように作るのか、その流れ、仕組みを作る必要がある。
- 委 員** 懇談会の公開にあたっては、お年寄りなどにも配慮して、インターネットだけではなく周知の仕方を工夫してほしい。
- 座 長** 安全対策については、岩盤工学の専門家が宇大にいる。よろしければ次回の懇談会に出席していただきたいと思うがどうか。
- 委 員** ぜひ、そうした専門的な先生からの意見をお伺いしたい。
- 座 長** 大谷にあっては、開発申請の際に、環境アセスメントのような形で、安全の事前審査のようなものがないだろうか。
こうした仕組みを作っていく必要がある。
- 委 員** 建築基準法による縛りもかなりあるのではないか。
- 委 員** 難しい側面はあるが、構造計算をきちんとやり安全性が担保できれば認められた事例はある。
大谷石の産地として、宇都宮市において大谷石の建築物についての基準を作れば、その基準を全国の自治体が準用できるのではないか。この効用は大きい。
- 委 員** 再生委員会による特区構想の国による審査においても、旧大谷公会堂の移築について、市の条例なりで可能だと言っている。
- 委 員** せっかくここには、産、学、官、民の代表が揃っている。行政も含めて大谷石の文化を築く必要がある。
その素材の活かし方を研究する必要があるのではないか。
- 委 員** 大谷は撮影に多く使われている。特異な景観を活かし、フィルムコミッション的な活用もできるのではないか。情報がほしい。
- 委 員** 現在建設している市の上下水道庁舎のロビーには、大谷石とテラコッタのコラボレーションの作品を使う予定で、その方法について大学で研究しているところ。これがうまくいけば、室内装飾の技術として使える。
- 委 員** ぜひ、そうした研究成果を広く共有する仕組みが必要だ。

座 長 そろそろ，時間となったので第 1 回目の懇談会は終了とします。

事務局 次回日程は，2 月 13 日，午前 10 時とします。

以上の協議を踏まえ，第 1 回懇談会は終了した。